

通園（放課後等デイサービス、児童発達支援）評価について

通園の概要

通園ルーム「ひまわり」は、在宅の人たちを支援するため、平成13年に重症心身障害児（者）通園事業 B 型として開設されました。平成24年度からは、法改正にともない「生活介護」「児童発達支援」「放課後等デイサービス」の多機能型として再スタートしました。

基本理念は、「在宅重症心身障害児（者）に活動の場を提供することで、生活リズムを作り、生活の質を高め、潤いのある生活を保障するとともに、経験の幅を広げ社会性を養う」ことにあります。また、「家族の介護負担を軽減し、安定した在宅生活を送れるよう支援をする」ことも理念として掲げています。

放課後等デイサービス（保護者評価）

放課後等デイサービスを登録されている10名の保護者の皆様へ評価をお願いし、6名の方より回答をいただきました。調査用紙はガイドラインで示された様式を使用しました。

①環境・体制整備は適切との回答をいただきました。「とても広く、充実していると思います」とのご意見も書かれていました。

②適切な支援の提供では、「放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか」の問いにどちらともいえない、わからないとの回答が集中しました。

③保護者への説明等では、「父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか」「定期的に会報やホームページ等で活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか」の問いに、どちらともいえない、わからないとの回答が半数ありました。一方、「とても丁寧に説明を受けました」とのご意見も書かれていました。

④非常時の対応では、「緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか」「非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか」の問いにどちらともいえない、わからないとの回答がほとんどでした。

⑤満足度に関しては全て、はいの回答でした。

その他「夏休みに数回の利用だけなので、詳細はわかりません」「雰囲気はゆったりしているので、子どもが落ち着いてすごせていると思います」とのご意見も書かれていました。

児童発達支援（保護者評価）

児童発達支援を登録されている6名の保護者の皆様へ評価をお願いし、5名の方より回答をいただきました。調査用紙はガイドラインで示された様式を使用しました。

①環境・体制整備では、「職員の配置数や専門性は適切であるか」の問いに、いいえ、わからないとの回答が半数をこえました。「以前いた看護師さん方と今は変わってしまい、

{愛}のある方がいるのかどうなのか常にそれを感じています。現在の状況には期待していないし改善すべきと思います。愛情持って接して頂けることを保護者は望んでいると思います」とのご意見が書かれていました。

②適切な支援の提供では、「活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか」が、どちらともいえない、わからないとの回答が半数を超え、「保育所や認定こども園、幼稚園との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか」はいいえ、わからないとの回答に集中しました。

「幼児や小学生の子どもたちとの交流する機会があるとうれしいです」とのご意見が書かれていました。

③保護者への説明等では、「保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか」「定期的に会報やホームページ等で活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか」の問いに、どちらともいえない、いいえ、わからないとの回答が半数をこえました。

「保護者会についてはスタッフはノータッチという姿勢と聞いている」とのご意見が書かれていました。

④非常時の対応では、「緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか」「非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか」の問いに、わからないとの回答がほとんどでした。

「感染症対策以外はわかりません」とのご意見が書かれていました。

⑤満足度に関しては、「事業所の支援に満足しているか」の問いにほとんどがはいとの回答だったことに対して、「子どもは通所を楽しみにしているか」の問いには、わからないとの回答が半数を超えていました。

「言葉を話せないので解らないが、ベッド又はバギーの上だけなのでいつもよりひまわりに行くとき寝ている時間が多いです。ということは退屈だということではないですか、分離は貴重なため、楽しみは他の通園でと割り切ってます」とのご意見も書かれていました。

放課後等デイサービス、児童発達支援（自己評価）

①環境・体制整備は適切に行われています。

②業務改善は「保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか」の質問項目にいいえとの回答が多くみられました。これについては今回初めて実施したので、アンケート時は事情がわからなかったものと思われますが、その後保護者アンケート結果をもとに改善に向けて対応を図っております。

③適切な支援の提供については、適切に行なっております。

④関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携では、「保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか」の問いについて、家族支援は行っているものの、プログラムを作成しても支援まではできていませんでした。今後検討をしていきたいと思います。

⑤保護者への説明責任等は、適切に行っております。

⑥非常時等の対応では、「非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか」については、下志津病院全体では年2回実施しておりますが、通園ルーム単独では実施しておりませんでした。

まとめ

当院では、放課後等デイサービスガイドライン、児童発達支援ガイドラインが出される以前より、通園ルーム「ひまわり」に関して、年2回（9月、2月）保護者会と院長はじめ病院幹部との話し合いの場を設けて、通園ルームにおける諸問題等の解決を図っております。さらに、今回から双方の自己評価を公開することになりましたが、結果に基づき、職員間で情報を共有し、利用者さま、ご家族の立場に立った支援を提供していきたいと思っております。

平成31年3月25日

国立病院機構下志津病院通園ルームひまわり

サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者 高橋真喜彦